



IX

協力事業

秋田県の取組み

ワールドゲームズ大会の開催に向けて、大会運営の実施主体となる組織づくりや受け入れ環境の整備、開催気運の盛り上げなどを支援するため、県は97年5月、地域開発課内にワールドゲームズ推進室を設置した。推進室が実施した支援、協力事業の主なものは次のとおりだが、他の部局においても従来の事業を大会期間中に時期をずらして実施したり、協賛事業として実施して、大会の盛り上げに寄与した。

1. ワールドゲームズ推進室

(1) プレイイベントの開催

アウトドアスポーツフェア
ボランティア大会
世界選手権への助成
ラストイベント
200日前イベント
競技デモンストレーション

(2) WGを支援する県民のつどい

AOCが実施した100日前イベントに合わせて、5月13日、秋田市内の会場で「WGを支援する県民のつどい」を開催し、気運の盛り上げを図った。集いでは、開会式総合プロデューサー今野勉さんの講演や公式テーマソング「風になれ～Like A Wind～」の作詞をした歌手の森川美穂さんのミニコンサートが行われ、約1,000人が参加した。IWGAのフローリック会長や参加日本人選手、県出身著名人などからのビデオ・メッセージも披露され、大会への期待が高まった。

(3) ウェルカムハンドブックの作成、配布

大会に訪れる外国人選手、役員及び観客に県内での行動の手引きとしてもらうため、緊急時の対応方法、国際電話、両替、簡単な日本語会話、競技会場市町村の観光案内などの情報を入れたハンドブックを8,000部作成し、秋田駅、空港、ホテルなどで配布した。

(4) 小学生英会話研修

ワールドゲームズでは直接外国人と接する機会が多い。話しかけられたら答えよう、自分からも何か声をかけてみようというのが目的。講師は県内在住の語学指導を行う外国青年で、簡単な挨拶や会話、国名の発音の仕方などを研修した。2000年度は51校、658人、2001年度は24校、420人が受講した。

(5) ワールドゲームズクラブへの補助

ワールドゲームズの競技を体験するWGクラブの設立を県内小中学校に呼びかけ、実施した学校へ補助金を交付した。

98年度 9校
99年度 15校
2000年度 30校

(6) 巡回広報事業

県内挙げての大会気運の盛り上げを図るため、各地方部単位に巡回し、大型映像画面積載車と大会マスコットキャラクター「ナミー・ハギー」等による広報活動を実施した。

実施期間 2001年5月3日～7月15日
(8日間)
実施箇所 8地方部管内 30ヵ所

(7) 看板等設置

県有施設や公共施設等への大会告知看板や横断幕等を掲出して、大会の周知と大会機運の盛り上げを図った。

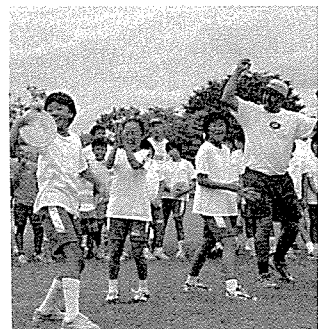
掲出箇所

秋田駅はじめ県内主要駅、秋田空港、県庁、各総合庁舎、秋田ふるさと村、文部科学省、東京事務所物産観光センター、市町村など

2. 観光課

観光課では、観光インフォメーション推進事業として、大会で来訪する観光客へ県内観光地の案内や情報提供、WG関係情報を提供するブースを秋田駅など5ヵ所に設置した。

(一部は組織委員会との共通ブースとして運営した。)



協力事業
【秋田県の取組み】

The 6th WORLD GAMES 8/16(Tue)～26(Sun)

3. 県民文化政策課

(1) 県民芸術祭の開催

例年9月以降に開催している芸術祭をワールドゲームズ期間に合わせて8月18日、19日に秋田市の県民会館でオープニングフェスティバルを行った。秋田の民謡や伝統芸能のほか、青森県、岩手県の伝統芸能も紹介し、県内外の観客に秋田の文化をアピールした。

(2) 「ストリングスプラザ INあきた」の開催

ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの弦楽器講習会を合宿形式で行った後、秋田市のアトリオンで演奏会を8月26日に行い、ワールドゲームズの最終日に花を添えた。例年夏と冬の2回講習会を行い、冬の講習会終了後にコンサートを実施しているが、ワールドゲームズ開催期間中にずらして開催し、世界から集まった観客に披露した。

4. 国際交流課

ワールド・カフェ・スクエア開催事業として、大会期間中（8月17日～25日）、ウェルカムセンターであるアトリオン地下イベントホールで世界7地域のお茶を提供し、日本の茶道との文化の相違点等も紹介した。期間中の来場者は約2万人で、リラックスした気分で国際交流が行われた。7地域の内訳は次のとおり。

中国、インド、アフリカ、スリランカ、アルゼンチン、ロシア、ドイツ

5. 県教育庁保健体育課

「スポレクフェスタあきた」とは、スポーツ・レクリエーション活動への理解を深め、実践の場を数多く提供して、県民の健康的、文化的活動に資するため実施しようとする事業である。本事業は2002年度から本格実施の予定だが、ワールドゲームズ開催に合わせてデモンストラーション競技を実施した。6月23日に健康秋田21全県一斉ウォーキングデーを行い、グラウンド・ゴルフ、スポーツチャンバラ、鳥海山登山など15種目を実施した。

協力事業 【秋田県の取組み】

The 6th WORLD GAMES 8/16(Tue)～26(Sun)

開催市町村からの報告

1. 秋田市

秋田市は、実行委員会は組織せず、ワールドゲームズのメイン会場都市として市内5施設とそこで行われた12競技をはじめ、八橋陸上競技場で開催した開会式の施設管理面での運営に携わり、人的協力も含め、運営主体のAOCを支援した。

また、AOCの広報、宣伝活動やボランティアの確保、観客の動員などに協力したほか、市施設等の円滑な許認可事務の処理に努めた。

(1) 組織体制

2000年4月から教育委員会体育課内に「秋田市ワールドゲームズ準備室」を新設し、室長はじめ各施設運営担当を置き、総勢13人の職員を配置した。

また、6月には、市役所全庁の組織として「秋田市ワールドゲームズ庁内連絡会議」を設置し、大会開催に当たって必要な許認可等の処理などを話し合い、協力体制を整えた。

開催年の4月には、「秋田市ワールドゲームズ準備室」を「秋田市ワールドゲームズ推進室」に名称変更し、総合調整機能の強化を図った。

(2) 支援職員

2001年2月にAOCの要請を受け、ボランティア等の一般運営要員をとりまとめる中核運営要員(班長)に充てるため、市職員19人を準備室に増員し、合計32人体制により一般運営要員の研修を実施した。

また、6月にはボランティア等と一緒に競技会場や開会式の運営に携わる一般運営要員に充てるため、職員170人を推進室に増員し、AOCの研修のほか、推進室が独自に研修を実施するなどして、総勢202人で大会本番に備えた。

(3) 広報

準備室の開設とともに、市役所庁舎1階正面ホールに「ワールドゲームズコーナー」を設置し、カウントダウン表示器や大型プロジェクターによるプロモーシ

ョンビデオの放映などにより、広く市民に大会をPRした。

また、大会本番の際には、市庁舎4階のベランダに「ウエルカム・ようこそ秋田へ」の歓迎看板を設置したほか、県庁・市役所通りを飾る万国旗とワールドゲームズ幟で歓迎に色を添えた。



協力事業【開催市町村からの報告】

The 6th WORLD GAMES 8/16(Thu)~26(Sun)



協力事業「開催市町村からの報告」

2. 雄和町

(1) 会場運営

県立中央公園で行われる競技の会場運営について、AOCの要請により施設管理と警備交通の部署を受け持ち、町からの支援職員や雄和町実行委員会ボランティアが業務に当たった。

また、会場を花で装飾することとし、雄和町連合婦人会がプランターに散水したり、搬入搬出したりするなど、その管理に努めたほか、町実行委員会では雄和町農村環境改善センターと競技会場を結ぶシャトルバスの運行を行った。

閉会式前に小学校児童がIWGA会長と一緒に記念植樹を行った。また、閉会式では、町内の中学校生徒が各IF旗の旗手を務めた。

(2) 競技運営

競技の開始式では、町長はじめ町議会議員、実行委員会委員らが出席し、記念品をプレゼントするなどして盛り上げた。

選手の入場、退場の行進曲の演奏を町内中学校の吹奏楽部が担当したほか、参加国のプラカード持ちには町内中学校生徒が当たった。

また、町内中学校生徒がナミー、ハギーのぬいぐるみを着て会場の雰囲気を盛り上げたほか、町内小学校児童がスクールパスポートを活用し、競技を観戦した。

表彰式では、町長がメダルのプレゼンターとなり、大正寺おけさ保存会の会員も補助者として式典に参加した。

(3) 交流事業

1) ゲートボール競技の韓国チームとの交流
実施日・場所／2001年8月15日

県立中央公園陸上競技場
参加者／チーム、町関係者、協会関係者、観客など計111人

印象・開催効果／

韓国、雄和町、秋田県ゲートボール協会チームの交流試合のほか、歓迎のつどいを開催し、韓国との交流が深められた。

2) 雄和の夏・大正寺おけさまつりへの選手・役員の招待

実施日・場所／2001年8月19日

新波商店街・J Aあきた大正寺支店前広場

参加者／選手役員(5カ国)計49人

観客／3,000人

印象・開催効果／

ゲートボールの選手役員がパレードに入って一緒に踊ったり、出店で秋田の食を体験したり、日本文化の体験と思い出づくりに貢献できた。

3) キャスティングの体験と選手交流

実施日・場所／2001年8月24日

県立中央公園球技場

参加者／町内小学校児童、教師、町民計165人

印象・開催効果／

10カ所以上の体験場所を設け、海外選手から直接指導を受けることができ、子供たちには良い思い出になった。

4) 女子綱引き選手歓迎のつどい

実施日・場所／2001年8月23日

雄和町サイクリングターミナル

参加者／選手役員(7カ国)、町民計177人

印象・開催効果／

多くの国と国際交流ができ、町の大きな財産と自信になった。雄和太鼓には、選手の拍手がなかなか鳴りやまなかった。

5) 野点、押し花の体験交流

実施日・場所／2001年8月25日

県立中央公園陸上競技場前広場

参加者／選手役員等260人、関係者43人、計303人

印象・開催効果／

体験した選手はほとんどが初めてであり、「心が和んだ」という選手も多かった。

(4) その他

町内4カ所にワールドゲームズの看板を設置し、多くの方々にPRを行った。

3. 天王町

(1) 運営組織

1) 天王町

町職員から中核支援職員(班長)5人、一般支援職員50人を動員したほか、体育指導委員、交通指導隊、婦人会、国際交流協会員の動員を図るなど、競技・会場運営体制の整備に努めた。

2) 天王町実行委員会

本町で開催される初の国際大会を成功に導くことを目的に、秋田ワールドゲームズ2001天王町実行委員会を2000年3月に発足させ、共催事業や大会気運の盛り上げ等の事業を行うこととした。実行委員は71人で、会長には石川光男天王町長が就任した。

予算 2000年度 1,366千円

2001年度 10,703千円

計12,069千円

主な事業内容

PR看板・仮設スタンド・屋内土俵の設置、仮設駐車場整備、清掃委託、会場整備、消耗品購入等

(2) 実施事業

1) 2000年9月24日に秋田ワールドゲームズ2001プレ大会・東日本選抜高校空手道競技大会を開催し、県内外から参加した19校232人の選手は頂点をめざし熱戦を繰り広げた。

2) 町の各種大会等の参加賞にWGタオルなどのグッズを使用し、大会気運の盛り上げを図った。

(3) 交流事業

1) AOCから招待を受けた町内6小中学校の児童生徒が手作りの小旗やメッセージを掲げ応援したり、試合の合間には記念撮影やサインを求めるなど、交流の輪を広げた。

2) オリエンテーリング選手との交流には、町内の4小学校の児童78人が参加し、

地図とコンパスを持ち片言の英語を交えながら、選手と一緒に特設コースを走り回り、心地よい汗を流した。

3) 生け花や野点(茶道)は大変好評で、茶席においては予定していた人数を大幅に上回るなど、国際理解・国際交流の一助になったことはもちろん、日本・秋田・天王の文化や人情にも触れていただくことができた。



協力事業【開催市町村からの報告】

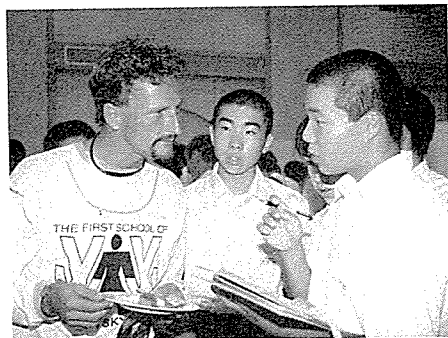
The 6th WORLD GAMES 8/16(Thu)~26(Sun)

4.大潟村



村民のスポーツに対する意識の高揚、ならびに国際交流の機会を設け様々な体験をとおして村民のふれあいの輪を広げることによる村の活性化を目的に、2000年6月6日、関係団体及び村内機関団体の構成による「秋田ワールドゲームズ2001大潟村実行委員会」を設立した。AOCと連携し、大会運営を円滑に遂行するとともに、大潟村らしい独自の事業を展開した。

(1) ウェルカムパーティー



8月15日(水)パラシュートティング(サンルーラル大潟)

8月21日(火)水上スキー(サンルーラル大潟)

各国の選手を迎えて開催されたウェルカムパーティー。ステージでは、龍勢会による太鼓、大潟中学校生徒による合唱が繰り広げられた。また村から選手に記念品として「ごてんまり」が贈られた。会場内では、選手役員、スタッフ・児童生徒が片言の英語ながらも和気あいあいと話し合い、すばらしい交流の場となった。

(2) 協賛イベント

「おおがた スカイフェスティバル」の開催
開催日/8月18日(土)・19日(日)

内 容/

- 1) 模型飛行機作製教室(場所:村民体育館)
参加/102名
- 2) 熱気球体験搭乗及び熱気球係留展示
(場所:村民野球場)
参加/200名
- 3) マイクロフライト機/パワードパラグライダー/模型飛行機、展示飛行(パラシュートティング競技ランディングエリア)
また、会場の一画で赤十字による救急講習も行われた。

企画展「これが水上スキー!これがパラシュートティング!」の開催

(大潟村干拓博物館)

開催日/大会期間中

内 容/競技用具や競技写真パネルを展示。

(3) 花いっぱい運動

会場内に花(あかさか)を植えたプランター100個を設置し、大会に彩りを添えた。

(4) 小・中学校、児童生徒の応援に対する助成

小学校の児童生徒が競技観戦(応援)することに伴い、国旗・手旗及び応援用Tシャツ等を作成するための材料費を助成した。

パラシュートティング(観戦・応援)

8月17日(金)大潟中学校

8月18日(土)、19日(日)大潟小学校
水上スキー(観戦・応援)

8月24日(金)大潟中学校

8月25日(土)、26日(日)大潟小学校

(5) 文化交流

大潟村芸術文化協会の協力により、選手役員に対して日本文化の鑑賞及び体験の機会を宿泊先のサンルーラル大潟内で提供した。

- ・ 8月14日(火)裏千家茶道愛好会
 箏曲正絃社
- ・ 8月17日(金)書道同好会
- ・ 8月18日(土)生花小原流
- ・ 8月20日(月)裏千家茶道愛好会
 箏曲正絃社
- ・ 8月23日(木)紅花会 着付(浴衣)
- ・ 8月25日(土)書道同好会

か、騒音は分散されそれほどの大きさでもなく、苦情等は生じなかった。

(6) 広報活動

大潟村広報5月号から8月号までの紙面で、特集「秋田ワールドゲームズ情報局」を掲載した。

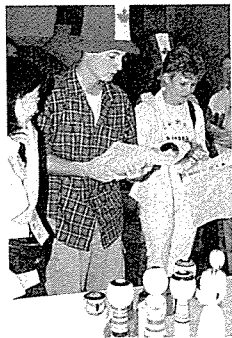
また、パラシューティング競技に使用する、自衛隊ヘリコプターの騒音について、文書を全戸配布し理解を求めた。

(7) 総括

- 1) 村の小さな組織で2競技もの世界大会を支援することは非常に困難であり、かつ、ソーラーカー大会からの連続イベントでスタッフである職員は疲労していたが、ボランティア等の協力や村のこれまでのイベント運営ノウハウにより、円滑な大会運営を達成することができた。
- 2) ウェルカムパーティーには、次代を担う児童・生徒が参加し、直接外国選手と会話ができる絶好の国際交流の機会となった。
- 3) 本村での競技は屋外で行われるため天候が心配された。結果的には、台風の影響で水上スキーの日程が一日順延されたが、大きな混乱もなくスケジュールの変更に対応できた。
- 4) ソーラースポーツラインの水上スキー用仮設駐車場は常に満杯状態となり、あふれた車で事故も心配されたが、最終的には大きな事故も発生しなかった。
- 5) パラシューティング競技に使用される自衛隊大型ヘリコプターの騒音が心配されたため、付近の住民に一軒一軒回り騒音について周知した。しかし、結果的には、村は平坦地であったため

協力事業【開催市町村からの報告】

The 6th WORLD GAMES 8/16(Thu)~26(Sun)



5. 横手市

(1) 交流事業

ボウリング競技会場となった横手市では、次のとおり交流事業を開催した。

1) ウェルカムパーティー

実施日・場所

8月20日(月)

横手セントラルホテル ラ・ポート

実施内容

選手団紹介、市内小学生から選手団への歓迎メッセージ贈呈、横手市伝統芸能披露

参加者数

選手団(24カ国・地域)、役員、実行委員会、児童、ボランティア(通訳) 合計160人

2) フェアウェルパーティー

実施日・場所

8月23日(木)

松與会館

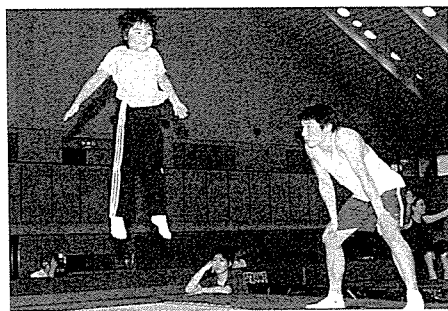
実施内容

選手団、役員、大会運営ボランティアのフリートークによる交流パーティー

参加者数

選手団(24カ国・地域)、役員、実行委員会、大会運営ボランティア 合計200名

3) わくわくジョイントワールドゲームズ(トランボリン)



実施日・場所

8月22日(水)

横手平鹿広域圏民体育館

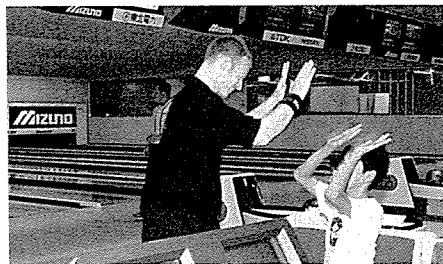
実施内容

ワールドゲームズトランボリン競技出場選手と横手市内小学生の交流(選手の演技披露、選手から小学生への技術指導)

参加者数

日本のトランボリン競技団体の選手・役員、実行委員会、横手市内小学生、観客、ボランティア(中学生) 合計100人

4) チャレンジボウリング



実施日・場所

8月24日(金)

台由ボウル

実施内容

・ボウリング競技出場選手と横手市民との交流
・市内小学生、中学生並びに高校生及び一般(社会人)のチームによる選手へのチャレンジマッチ
・選手から参加者への技術指導

参加者数

各国ボウリング競技団体(イングランド、フィンランド、ドイツ、グアテマラ、オランダ、アメリカ、カナダ、ウェールズ)、市内小学生、市内中学生、市内高校生、一般市民、観客、ボランティア(中学生) 合計163人

(2) 開催効果について

- 1) 日本の伝統文化、横手市の伝統文化を海外へ発信できた。
- 2) 一流選手の演技・技術を見て、指導を受けることにより、スポーツへの参加意識の啓発を行うことができた。
- 3) 市内の小学生・中学生・高校生等次代を担う子供達にとって、第6回ワールドゲームズが夏休みの素晴らしい思い出になったと同時に、国際舞台へ羽ばたく一つのきっかけになり得たと考える。
- 4) 2007年度に横手市で国体ボウリング競技が開催される予定であり、その大会運営を考える上で良い参考となった。

6. 六郷町

(1) 競技運営に関する六郷町の取り組み

1) 組織

六郷町体育協会、観光協会、芸術文化協会、交通指導隊など約160人のメンバーで構成する六郷町実行委員会を組織し、会長に六郷町長、副会長及び理事に各団体の代表者が就任した。

2) スケジュール

2000年8月に設立総会を開催し、活動を開始した。2001年7月に2度目の総会を開催し、各団体に協力を呼びかけ、競技面、運営面で協力を得た。

3) 予算

文化・交流イベント、ポスター印刷、ウエルカムゲートの設置、フェアウエルパーティなどの費用として、約900万円を予算化し、事業を行った。

(2) 市町村活性化のための取り組み

1) 一学級、一国応援運動

六郷中学校では一学級一国応援運動として、各クラスに応援するチームを割り振り、専属に応援を行った。それに関連し、8月17日の公式練習終了後、参加選手達と各クラスの交流会を開催し、参加国の風習や言葉を学習したり、ゲームなどで楽しい時間を過ごした。

2) 文化・交流イベント

芸術文化協会、観光協会の協力により、お茶会や生け花、剣道の体験教室を開催した。また、例年8月第1土曜日の清水祭りをワールドゲームズにあわせて行い、メインの行事である樽みこしに多くの選手役員が参加した。

また、六郷中学校の3年生がかつぎ手として、六郷東根小学校の児童が太鼓演奏で参加し、選手役員と交流を深めた。

また、観光ボランティアや中学生のボランティアが町内を案内するなど、競技に直接関係のない部分でもボランティア活動が行われた。



3) フェアウエルパーティの開催

競技最終日（8月22日）の表彰式終了後、参加選手と関係者、ボランティアスタッフが参加し、フェアウエルパーティを開催した。JAZZやカントリーバンドが出演し、選手達の陽気な歌や踊りが夜更けまで続いた。

(3) その他

練習会場として町民体育館、トレーニングセンター、休憩場所として公民館を提供した。公民館には、ドリンクサービスコーナー、パソコンルームなどを準備し、試合の合間に休憩したり、Eメール送信などができるようにした。

(4) 総括

各団体の協力により、競技運営、交流事業と素晴らしい実績を残すことができた。特に、六郷中学校の応援団と自主的な交流事業は今後、国際化社会に対応していく子供達にとって、いい経験になった。

7. 本荘市

(1) 運営組織



1) 本荘市関係

中核支援職員(班長)9人、一般支援職員17人(式典部を除く)を動員し、競技・会場運営のボランティアや体育指導員の取りまとめ役となった。

2) 本荘市実行委員会

本荘市で開催される競技を共催・支援する目的で、秋田ワールドゲームズ2001本荘市実行委員会を2000年11月に発足させ、共催事業の実施や大会気運の盛り上げを図ることとした。108名が会員となり、会長には柳田弘市長が就任、教育委員会スポーツ課が事務局となった。

予算

- ・本荘市
秋田ワールドゲームズ推進事業
(4,000千円)
主な内訳
(消耗品80、食糧費816、会場整備費2,900)
- ・本荘市実行委員会 補助金(900千円)
主な内訳
(PRシール・ポスター・看板400、
ウェルカムパーティ400)



(2) 実施事業

1) イベント事業

WGマスコットキャラクター“ナミー&ハギー”等(着ぐるみ・グッズ)を活用し、次のイベントを行った。

- ・2000年12月3日に、「本荘市スポーツ少年大会」を秋田大学ハンドボール部の協力で実施。本荘市には馴染みのないハンドボールをルール解説やミニゲームを通して体験。
- ・2000年大晦日から2001年元旦にかけて、本荘公園を主会場にカウントダウンイベントを実施。参加した市民にWGパンフレットや記念品をプレゼント。
- ・2001年1月8日の「本荘市成人式」ではWGブースを設置し、パンフ配布やビデオ放映を実施。式典前のアトラクションでは“ナミー&ハギー”の着ぐるみを使った抽選会などを行って大いに会場を沸かせた。

2) 交流事業

AOCから招待を受けた市内12の小中学校と1つの養護学校の児童生徒達が、それぞれ応援チームを決め、手作りの手旗やイラスト、記念品などを作成して応援を繰り広げ、また、選手達の試合の空き時間を利用して、記念撮影やプレゼント交換を行った。

3) ウェルカムパーティー

本荘市実行委員会の主催によりウェルカムパーティーを8月22日に開催した。競技団体役員、各チーム代表者、実行委員会関係者ら100人余りが参加して盛大に行われ、本荘市長から歓迎のあいさつと関係者に名産のごてんまりがプレゼントされた。

4) クリーンアップ

2001年7月15日と8月19日、競技会場のほか、搬入道路や隣接する国有林を対象として、本荘市の全面的な支援体制の下に一般市民によるクリーンアップを行った。

8. 岩城町

(1) 受け入れ体制

岩城町がライフセービング競技会の開催地を引き受けることを公式に表明したのは、2000年1月31日に開催した町議会全員協議会の席上であった。

まずはじめに、町総務課、情報企画課、教育委員会にあった窓口を教育委員会に一本化した。これにより県推進室との連絡調整がスムーズとなり、初年度は、目標を全町挙げての体制づくりと町内外への競技内容の周知とした。

ライフセービング競技は関東一円では大学生を中心に全日本大会も開催されているが、県内では皆無で、有数の海水浴場がありながらライフセービングという意味もほとんど知られていない現状であったため、小学生を対象としたジュニアライフセーバー講習会と競技種目であるビーチフラッグス大会を開催し、PRに努めた。



(2) 大会準備

開催年は、会場となる「道の駅岩城」を中心とした観光施設職員の研修や大会期間中の選手、役員との交流会の実施、そして会場の整備を重要課題とした。

また、英会話教室を開催したほか、温泉施設の入浴方法の英語版を作成し、外国の人に温泉を利用してもらうよう準備した。

8月22日に行われた交流会はほとんどの選手、役員が参加し、日本文化として紹介した日舞に大いに興味を示したほか、手作りのミニ国旗が大評判でパーティー終了時には一本も残らなかった。参加者の半分以上が外国人であったが、陽気な中にも節度を持った若者と会話が弾み、非常に有意義なパーティとなった。



会場整備については、漂流物や草木が生い茂り、雑然としていたが、重機による粗造成後、人海戦術で取り組んだ。特に中学生は、全校参加の清掃活動のほか夏休み中の地区活動の事業にも取り入れるなど積極的に参加した。

また、ボランティア清掃には秋田海上保安部の潜水士やサーフィン愛好者が参加し、町民と一緒に猛暑の中ゴミ拾いに汗を流した。会場清掃に参加した延べ人数は300人を超え、ゴミの量は2tダンブ7台分になった。特にビーチフラッグス競技エリアはトラクターで砂を掘り起こし、さらにふるいをかけ小さなゴミを拾い集めた。この地味で大変な作業は、男子ビーチフラッグス銅メダリスト但野秀信選手の「小さなゴミまで丁寧に拾い集めている地元ボランティアのみなさんの姿を見て、心の底から感動しました。この人たちのためにも頑張らなければと思います」という言葉によって全てが報われた感があった。

(3) まとめ

大会は長い準備期間に比べ、あっという間に終了した。しかし、町が受け継いだものはたくさんある。今年(2001年)も日本ライフセービング協会の協力によりジュニア講習会を開催した。講習会は今後も続けていく予定である。近い将来、道川海水浴場にここで育ったライフセーバーが活動している光景を夢見ている。

秋田ワールドゲームズ振興会の活動

1. 組織体制

寄付金について民間募金を促進するために、1999年7月、秋田ワールドゲームズ振興会を設立した。48人の役員で構成され、会長には佐藤興吾さん(秋田県電子工業振興協議会名誉会長)が就任し、募金活動の統括を行った。

専従職員2人体制で事務局運営にあたった。

2. 募金活動

民間募金は、当初から積極的に募金活動を展開した。前期は、招致委員会および準備委員会当時の初期の活動である。発起人が関係企業を中心に募金活動を展開して資金を集め、招致委員会および準備委員会を軌道に乗せ、後期体制の基礎を築いた。

後期は、組織委員会や振興会の設立後の本格的な募金活動の時期である。振興会は、2000年2月に決定された目標額の達成を図るべく、AOCと連携して、その獲得に全力を挙げた。そのために、年会費・寄付金の選択、3年分割納入制、税法上の取り扱いなど募金方法に工夫をこらした。

3. 活動体制

活動体制としては、振興会および組織委員会の役員に、担当団体・企業および目標額を付与し、具体的な活動を依頼した。さらに2000年4月、組織委員会に募金活動担当者が配属となり、体制強化が図られた。募金担当者は、リストアップした企業・団体を訪問し、ワールドゲームズのPRと募金活動への理解を求めた。

4. まとめ

AOCとAOC役員、そして秋田ワールドゲームズ振興会とが相互に連携して、寄付金集めに精力的に活動した結果、景気の下降状況下にあったにも拘わらず、最終的には、565の企業・団体・個人から目標額を大きく上回る寄付金が寄せられ、大会成功に大きく貢献した。





競技記録集

The 6th WORLD GAMES 8/16(thu)~26(sun)